

1 実施時期及び実施校

令和6年2・3月

四街道市内全小学校12校

四街道市内全中学校5校

2 評価の方法

(1) 標準化された学力検査

千葉県標準学力検査は、「絶対評価法の手続きによるテスト」である。児童生徒一人一人が、“その学年で、その教科で、達成を期待されている目標”に対して、“どの程度到達しているか”を個人別に、そして学級・学年単位で、学習指導要領に示されている内容（領域）別と観点別に知ることができる標準検査である。

千葉県標準学力検査は、「標準化の過程」を踏まえて作成してある。そのために、評価基準、問題内容、実施時期や採点方法を細かく検討し、検査結果（得点）などを解釈するための尺度を作成している。したがって、標準化された学力検査問題という性格から、問題の妥当性や信頼性については十分検討されたものとなっている。

(2) 標準化の過程

千葉県標準学力検査は、次のような標準化の過程を取り入れている。

- ①学習指導要領（解説を含む）並びに県内の採択教科書を検討する。
- ②学年別、教科別に、評価基準表を作成する。
- ③評価基準表から評価項目を抽出し、検査問題を作成する。
- ④問題の作成にあたっては、基本的に下記のような評価基準を目安とする。
 - 約80%以上……………十分満足……………A
 - 約79～60%……………おおむね満足……………B
 - 約59%以下……………努力を要する……………C
- ⑤作成した問題の予備調査を実施する。
- ⑥予備調査をしたデータに沿って問題を検討し直す。
- ⑦「折半法」によって問題の信頼性を確認する。
- ⑧修正した問題について再調査を実施し、妥当性・信頼性を確認する。

(3) 本市の評価方法

千葉県標準学力検査は、絶対評価に基づいた標準検査であり、解釈するための尺度が、上記のように示されていることから、県平均との相対比は加味せず、正答率のみをもって判断する。

80%（点）以上	A判定：得意である、身に付いている、高い傾向にある
60%（点）以上	
～80%（点）未満	B判定：概ね身に付いている、概ね理解している
60%（点）未満	C判定：課題がある、低い傾向にある

令和5年度 千葉県標準学力検査 結果の概要

資料2

【小学校】

		国語	社会	算数	理科	外国語
1年生	市平均	B		B		
	県平均	B		B		

2年生	市平均	B		B		
	県平均	B		B		

3年生	市平均	B	B	B	B	
	県平均	B	B	B	A	

4年生	市平均	B	B	B	A	
	県平均	B	B	B	A	

5年生	市平均	B	A	<u>C</u>	B	A
	県平均	B	A	B	B	A

6年生	市平均	B	B	B	B	A
	県平均	B	B	B	B	A

全学年	市平均	B	B	B	B	A
	県平均	B	B	B	A	A

【中学校】

		国語	社会	数学	理科	英語
1年生	市平均	B	<u>C</u>	<u>C</u>	<u>C</u>	<u>C</u>
	県平均	B	C	C	B	B

2年生	市平均	B	<u>C</u>	<u>C</u>	<u>C</u>	<u>C</u>
	県平均	B	C	C	C	B

3年生	市平均	B	B	<u>C</u>	B	B
	県平均	B	B	B	B	B

全学年	市平均	B	<u>C</u>	<u>C</u>	B	B
	県平均	B	B	C	B	B

※ 太字太枠：A / 標準字体：B / 斜体字下線：C

小学校では、算数において、多くの学年で思考力・判断力・表現力に課題がある。外国語においては、知識・技能及び思考力・判断力・表現力が高く、学習内容がよく身に付いている。

中学校では、国語において、特に相手に伝わるように話したり、相手の話を正しく聞きとったりする力が身に付いている。国語を除く4教科では、多くの学年で思考力・判断力・表現力に課題がある。1、2学年の数学では、計算や図形、関数、データの活用などの多くの領域に課題がある。

授業改善のポイント

■小学校 国語科

○指導改善のポイント

「言語」の領域について

- ・低学年では身近なことを表す語句の習得を図り、語彙を豊かにすることが大切であり、高学年では、思考に関わる語句の量を増やし、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して語句を使うことが大切である。そのために、漢字の学習や語句の学習などの基礎的・基本的な学習内容について、反復練習や小テスト等による習熟状況の確認が効果的である。

「話すこと・聞くこと」の領域について

- ・話し手の意図を理解しながら聞く機会や、要旨をメモに取りながら聞く機会を授業等で意図的に設定することが必要である。

「書くこと」の領域について

- ・日記を書くことを習慣化したり簡単な文章や、自分の考えを短い文章で表現する機会を日常的に設定したりすることで書くことへの抵抗をなくすことが必要である。また、自分で書いたことを伝え合うことで、友達との考えを比較したり深めたりすることができるため、話し合い活動の時間を設定することが大切である。

「読むこと」の領域について

- ・学校図書館の活用やブックトークにより、新聞や詩集、親しみやすい古文等の様々な読みものに触れ、読書活動の充実を図ることで、読むことへの楽しみを実感し、粘り強く文章を読み進める力を身に付けることが大切である。また、目的をもって読むようにすることで、要旨や心情を理解しながら文章を読み解く力を身に付けることも必要である。

その他

- ・話し合い活動等の交流活動においては、活動後に自分の考えを見直す時間を確保したり、自己評価等を工夫したり等、育成を目指す資質能力が身に付いたかどうかの「振り返り」が大切である。
- ・既習内容や必要な情報を選択・活用して文章を書いたり、自分の考えをまとめて発表したりするような表現活動を意図的に設定することが大切である。
- ・思考や学びを自ら整理できるようなノート指導を行うことが大切である。
- ・ICTの活用において、効果的な活用としてよさを生かしながら学習内容、児童の実態、学習課題、そして発達段階における活用の仕方をする必要がある。

■小学校 社会科

○指導改善のポイント

児童へのはたらきかけ

- ・ 単元を通じた学習問題を作成し、児童とともに学習計画を立てる必要である。
- ・ 児童が学習過程をより意識し、問題解決的な学習のよさを実感できるような工夫が必要である。また、「まとめあげる」の場面では、わかったことを自分の言葉でまとめる活動を充実させる必要がある。

「社会的な見方・考え方」の育成

- ・ 「社会的な見方・考え方」を働かせることを意識して思考ツールを活用することで「深い学び」に繋げていくようにする。

資料の提示の仕方の工夫

- ・ 学習や既習事項の振り返りに役立つ資料の提示については、地図や年表、グラフ、実物等を用いるとより効果的である。

ICT機器の活用

- ・ 児童が互いに学び合い、助け合い、深め合う場を意図的に設定するとともに、ICTなどを活用した言語活動の充実を図ることが必要である。

■小学校 算数科

○指導改善のポイント

指導計画

- ・ 児童の単元等に関する情意面や既習内容の習熟度等を把握し、実態に合わせた指導計画を作成する必要がある。

「主体的に学習に取り組む態度」の育成

- ・ 授業において、身の回りの素材を活用したり、多様な数学的な見方・考え方が期待できる課題設定を工夫することで、児童が興味・関心をもって主体的に学習に取り組めるようにすることが大切である。
- ・ 主体的な学びにつなげるために、既習事項との違いや児童の疑問点等から学習問題を設定するだけでなく、学習問題とまとめの整合性を意識して指導計画を立てることで、児童が見通しをもって学習できるようにすることが重要である。

指導形態の工夫

- ・ 少人数指導、学習サポーター等を活用したり、ペア学習、グループ学習などの学習形態を工夫したりして、個に応じた指導の充実を図ることで、全体の習熟度向上を図ることが大切である。

「思考力・判断力・表現力」の育成

- ・ 授業のねらいを明確にし「自力解決」によって自分の考えを持たせるとともに、他との「練り上げ」を通して考えを深め、洗練させていく。多様な考えを発表し、互いの考えの良さを生かしながら、自分の考えを説明し合う活動を取り入れることで、数学的な思考力、表現力を高めていきたい。

振り返り

- ・ 学習内容や学習過程を振り返る場面において、学習問題に即して自分の言葉でまとめを書いたり自身の取組や気づきへの振り返りをしたりする時間を十分に確保するとともに、適用問題を利用した課題を与えるなどして、応用力を身に付けるための取組が大切である。

■小学校 理科

○指導改善のポイント

効果的な学習課題の設定

- ・4年間を通じた継続的な問題解決の力の育成に努める必要がある。
- ・授業において自然と親しむ中から生まれる発見や疑問を大切にした学習問題や、知的好奇心を刺激し、興味・関心や多様な考えを引き出せる学習問題を設定して展開することが大切である。
- ・地域環境の教材化を推進し、自然に親しむ活動や体験的な活動を多く取り入れ、自然災害との関連を図ることが重要である。

ICT機器の活用

- ・タブレット端末を活用して、日常的かつ疑似的に自然体験をさせることや情報収集も効果的である。

学習形態の工夫

- ・個別、グループ、一斉などの学習形態を工夫し、自分の言葉で記述する言語活動の充実を図り、視点をもった対話による深い学びの効率的な取組につなげる必要がある。

振り返り

- ・主体的に問題解決しようとする態度が養われるよう、児童自身の学習活動の振り返りを重視する必要がある。

■小学校 外国語科

○指導改善のポイント

目的意識・相手意識を大切に

- ・児童が目的意識や相手意識をもち、「自分の考えや気持ちを伝え合う」ことができるように、児童個々の実態を的確に把握し、指導の充実を図る。

「聞くこと」の指導

- ・音声的に十分にやり取りした上で、教科書の音声を聞くことに取り組むようにすることが効果的である。

「話すこと[やり取り]」の指導

- ・指導者とALTがモデルを示し、指導者と児童でやり取りの確認をした後、児童同士で取り組むようにし、中間評価を行った上で、もう一度取り組むようにすることが大切である。その際、日常生活でよく見られる必然性のある目的・場面・状況を設定し、より自由度の高い言語活動を充実させるようにする。

「話すこと[発表]」の指導

- ・コミュニケーションの目的・場面・状況を意識した言語活動を設定することが重要である。

「読むこと」の指導

- ・「聞くこと」「話すこと」の活動を十分に行った後で、文字と音の関係や語句と意味のつながりに気づくようにすることが必要である。

「書くこと」の指導

- ・小中学校間でのスムーズな連携を目指し、「読むこと」と同様、十分に音声練習をした後で、行うことが重要である。その際、児童の発達段階に応じて、学習活動を工夫する必要がある。

■中学校 国語科

○指導改善のポイント

年間指導計画等について

- ・ 育成を目指す資質・能力を明確化し、生徒の実態に応じ、系統性を踏まえた年間指導計画を作成することが重要である。また、指導事項の内容を理解し、小学校段階の既習事項、他学年の指導事項の内容を把握し、関連を図る必要がある。
- ・ 年間指導計画の中に、効果的に言語活動や多様な学習形態の工夫を位置付けることは、生徒の主体性を引き出す上で効果的である。生徒自身が、学ぶ目的の中から課題や身に付けたいことを見だし、学ぶ必然性を実感できるような学習課題を設定したい。

「言語」について

- ・ 教科書を読むことや読書を通じて、漢字一字一字の音訓を理解し、語句や文章の中において、文脈に即して意味や用法を理解できるように指導することが大切である。

「話すこと・聞くこと」について

- ・ 授業の中で、目的に沿って、互いの考えを伝え合ったり生かし合ったりする話合いや議論、討論などの言語活動を通して指導することが効果的である。

「書くこと」について

- ・ 読みやすくわかりやすい文章にするために、自分が書いた文章が考えを伝えるものとなっているか、読み手の立場に立って読み返す場面を、授業の中で設定することが必要である。

「読むこと」について

- ・ 文章を読んで理解したことを他者に説明したり、他者の考えやその根拠などを知ったりすることが、自分の考えをもち、それを広げる上で効果的である。また、教科等横断的な視点から、各教科・領域と連携して取り組むことが大切である。

その他

- ・ 学習計画や教師モデルの提示を行う等、学びの見通しがもてるように学習環境を工夫することで、生徒の意欲を高めていく必要がある。
- ・ 言語活動は目的ではなく、あくまで育成を目指す資質・能力を育てる手段であることの確認が必要である。ICTも同様であり、効果的に活用し、思考の整理や発表等学習環境の工夫が大切である。
- ・ 学校司書と連携しながら学校図書館資料等を計画的に活用したい。

■中学校 社会科

○指導改善のポイント

実態把握

- ・ 本単元で身に付けるべき内容をどの程度身に付けているか確かめたり、事前に身に付けているべき知識及び技能の定着度を確かめたりすることが大切である。また、情意面の実態調査を行う場合は、学習内容に対する関心・意欲も含ませるようにする。
- ・ 学習計画を立てるときには、小学校社会科の内容との関連及び各分野相互の関連を図ることが大切である。
- ・ 校種を越えたつながりを意識する必要がある。

作業的・体験的な学習の充実

- ・資料を選択し活用する学習を重視するとともに、作業的・体験的な学習の充実を図ることが大切である。

「社会的な見方・考え方」

- ・「社会的な見方・考え方」を働かせながら「深い学び」につなげることを意識した授業改善が大切である。

I C T 機器の活用

- ・協働学習において I C T をさらに効果的に活用するとともに、ノートとの併用について、試行錯誤を重ねていく必要がある。

■中学校数学科

○指導改善のポイント

指導計画について

- ・生徒の単元等に関する情意面や既習内容の習熟度等を把握し、実態に合わせた指導計画を作成する必要がある。
- ・生徒が日常生活との関連を意識し、自律的・協働的に学習に取り組めるように、指導計画を作成することが大切である。

「主体的に学習に取り組む態度」

- ・既習事項との違いや生徒の疑問点等から学習問題を設定することで、主体的に学習課題を追求しようとする態度を育成することが重要である。
- ・授業において、教師の説明時間を減らし、生徒自らが結果や方法の見通しを持ち、考え思考する時間を確保する必要がある。

学び合い

- ・授業において、「事象の共通点、相違点、一般性を見出す」「考えの根拠やその良さに気付くこと」「理論的に説明できるようにする」等、話し合い活動の視点を明確にし、多様な考えを学び合う場面を設定することで、数学的な見方や考え方を深めていく必要がある。

各領域について

- ・「数と式」については、数の性質について成り立つ事柄の特徴を、数学的に説明できるようにするために、文字を用いた計算結果を事象と関連付けて読み取る活動を充実させることが大切である。
- ・「図形」については、関数の視点から、図形の性質を考察する等、図形の性質を数量の関係に着目して捉え、その関係を数学的に表現する場を、授業の中で積極的に取り入れることが大切である。
- ・「関数」については、具体的な事象の中から伴って変わる二つの数量を取り出し、それらの関係を見出す活動を充実させることが大切である。
- ・「データの活用」については、数学科で身に付けた技能を、社会科における表やグラフ等の具体的なデータから資料の傾向を把握したり比較したりする活動に活用する場を意図的に設定するなど、教科等横断的な視点で指導計画を立てることも効果的である。

■中学校理科

○指導改善のポイント

「主体的に学習に取り組む態度」の育成

- ・自然の事物・現象と関わる中で生じた疑問をもとに、身の回りの現象について演示実験や既習事項を生かした導入の工夫を図り、生徒の知的好奇心を刺激し、興味・関心や多様な考え方に対応できるような学習問題の設定が必要である。

観察・実験

- ・科学的に探究する力を伸ばすために、既習事項や生活経験を基に、目的意識と見通しをもって観察、実験に取り組めるような授業展開の工夫と生徒自身の学習活動の振り返りを重視する授業展開にすることが大切である。
- ・予想や仮説を立てる場面や、観察、実験の結果から整理し、考察、説明する場面において、話し合い活動などの言語活動を充実させることは、科学的な見方・考え方を磨くことにつながる。
- ・観察、実験や自然体験、科学的な体験を基盤として、生徒が、主体的・協働的に問題解決を図っていくことができるような支援を充実させることが大切である。活動が難しい場合には、タブレット端末を活用して資料を提示する等、疑似体験的な活動を取り入れることも効果的である。
- ・観察、実験等によって得られた知識を、身の回りの自然の事物・現象と関連付けて考えさせる活動を取り入れることで、自然現象についての知識・理解をさらに伸ばしていくことが大切である。

学びの系統性

- ・小学校や高等学校との系統性や理科を学ぶことの意義や有用性を実感できるよう留意することが必要である。

■中学校外国語科

○指導改善のポイント

学習形態の工夫

- ・グループワークやペアワークなど、学習形態を工夫し、生徒が自信をもって発話できる環境を整えることが重要である。

小中の学びの接続

- ・学校間小中連携を強化し、学習内容や児童生徒の実態等を共通理解し、小中学校間の学びを接続させた指導方法や評価方法を工夫することが効果的である。また、小学校での学習内容を活用し、工夫した言語活動を展開することが必要である。

「思考力・判断力・表現力」の育成

- ・複数の領域を統合した言語活動を行いながら自発的・主体的に生徒が思考し表現するような授業展開を図る必要がある。

I C T機器の活用

- ・学習目標を達成するために、デジタル教科書を含め、タブレット端末を効果的に活用する。

繰り返しの学習

- ・語彙や表現、文法等の知識については、繰り返しの学習により定着を図り、既習の言語材料を選択・活用しながら、学習を深めていくことが重要である。

教師の英語使用

- ・教師が積極的に英語を使用し、生徒の英語力を高め、中学校卒業時の到達目標（C E F RのA 1レベル程度）を達成させることが求められる。